



AET1

Asian and Middle Eastern Studies Tripos, Part IB

Friday 1 June 2018, 13.30 to 16.30

Paper J7

Literary Japanese

Answer **both** sections and **all** questions.

Write your number **not** your name on the cover sheet of **each** answer booklet.

STATIONERY REQUIREMENTS

20 page answer booklet

Rough Work Pad

SPECIAL REQUIREMENTS TO BE SUPPLIED FOR THIS EXAMINATION

None

You may not start to read the questions printed on the subsequent pages of this question paper until instructed to do so.

SECTION A

(1) Translate the following passage from an **unseen** text into **English**.
The headnotes are for reference only. [40 marks]

一八 生きてゐる仏とあがめられる
高德の僧。
一九 高德の僧が食べた魚を吐くと
生きて水中に泳ぐという説話は、
『今昔物語集』卷十一の二の行基の
話、『有馬温泉小鏡』の話など多く
ある。

二〇 京都市左京区一条寺下り松付
近。大徳寺より約五キロメートル東に位置
する。

一休ばなし 卷之一

九 一休魚をくひて高札を立給ふ事

「一休和尚は生いまだ仏とけにて、魚をまいりて水中へはき出し給へば、
其魚たちまちいきかへりて、もとのごとくになる」と、洛中らくちゆうに
此事この専もつぱらなり」と、或人ある来りてかたりければ、一休おかしくお
ぼしめし、洛中らくちゆうの辻々つじくに高札たかふだをこそあげられける。其ことばに
いはく、

来るきたいついのかの日、さ三〇がり松のほとりむらさき野におゐ

Question 1 continued...

仮名草子集

一 一休晩年の墨跡には「天下老和尚」と称する場合が多くある。一休は『碧巖録』などにより、この称を使つたと考えられる。

二 神仏の靈験。ご利益。
三 「語り種さく」に同じ。話の種。話題。

四 人々が多く集る。群集する。「見物市を成す」(今昔・卷一・九)。
五 「群集」。人が多くむらがり集まること。

て、魚を食くて、其そのままとの魚にはき出し、水中におどら
さしむる事也。御望のぞみのかたく御見物みぶつに待奉る

太夫は天下老和尚一休大禪師

とぞかかれける。

洛中らくちゆうの諸人しよじん是これを見て、「うそかまことか、かくとは人々いひ
けれど、まことしからず思ひしに、さてはうたがふ所なし。正
しく御自筆じひつにて高札たかたを立らるる上は、しるしなくてはかなふま
じ。いざや人々見物して、末代まくだいのかたり句くにせよや」とて、し
るもしらぬも、みたも見ぬも、其日そのひの来くるを待かねて、門前かどまへに
市いちをなし、我見われみもらさじと、ころぶまでのびあがりて、洛中らくちゆうの
貴賤きせんくんじゆせり。

Ikkyū banashi, in Shinpen Nihon koten bungaku zenshū vol. 64, pp. 255-256.

(TURN OVER)

Vocabulary (question 1)

はき出す	to vomit, to spit out
たちまち	すぐ
いきかへる	to resuscitate
洛中	京の中
もっぱら	その事ばかり
辻々	at every crossroad
上げられける→上げる	立てる
いわく	曰く＝言ったのは
いついくかの日	on a certain day
おどらす	泳ぐ
太夫	here with the meaning of 'signed by'
まこと知らず	まことらしくない
うたがふ	to doubt
上は	からには
かなふまじ	無理だろう
見みらす	to fail to see
ころぶ	to fall down
のびあがる	to stand on tip toe
貴賤	high-born and low-born alike

For convenience, this vocabulary list is **copied** at the end of the paper.

SECTION B

(2) Translate the following passage from a **seen** text into **English**. [14 marks] Please disregard the note numbers. Comment on the grammar points below. [6 marks]

御曹子は聞こしめし、連歌島を立ち出で、急がせ給へば、程もなく、日数積りて、三十五日と申すには、とある島に着き給ふ。船漕ぎ寄せて見給へば、男子とては一人もなく、女ばかりの島に着き給ふ。「この島の名を何といふ」。島の者ども承り、「さん候ふ。昔より、男子はなくし、女子ばかりの島なれば、女護の島と申すなり」。御曹子聞こしめし、「さて、男の種を何とする」。島の者ども承り、「さん候ふ。日本より南風の吹きけるを、男風と受け取りて、最愛するなり。死しては生じ、生じては死し、さうして、この島には、女人の数、十万八千人と承る。なんぢのやうなる、おち風におとされて、この島に吹きつけられし男子をば、急ぎからめ取り、肉身をすきて、われらが内裏に上ぐるなり。骨をば煎じて、われらがやうなる者どもが賜りて、服するなり。いざや、あの者取らん」とてひしめきけり。

Onzōshi shimawatari, in *Shinpen Nihon konten bungaku zenshū* vol. 63, pp. 100-101.

Grammar points to comment on (see underlined passages):

急がせ給へば [2 marks]

女子ばかりの島なれば [2 marks]

あの者取らん [2 marks]

(TURN OVER)

(3) Translate the following passage from a **seen** text into **English**.
Please disregard the note numbers. [20 marks]

羅城門登 上層見 死人 人盗人語第十八

今昔、攝津ノ國邊ヨリ 盜ガセム為ニ京ニ上ケル男ノ、日ノ未ダ明カカリケ
 テリケル 朱雀ノ方ニ人重ク行バケレ 人ノ静マデト思テ、門ノ下ニ待立テリケ
 ル音レバ、其レニ不見エジ思テ、門ノ上層ニ和ヲ搔ツリ登ルニ、見レバ、火髯ニ燃シタ
 盗人、「恠」ト思テ、連子ヨリ臨バケレ 若キ女ノ死テ臥タル有リ。其ノ枕上ニ火ヲ燃シテ、年極ク

15

Question 3
continued...

老^{オイ}タル^{オウナシラガ} 嫗^{オウナシラガ}ノ白髮^{オウナシラガ}白^{オウナシラガ}キガ、其^{シニシ}ノ死^{シニシ}人^{シニシ}ノ枕^{ガミ}上^ニ居^キテ、死^{シニシ}人^{シニシ}ノ髮^{シニシ}ヲカナグリ拔^{ナリ}キ取^{ナリ}ル也^{ナリ}ケリ。

盜^{オド}人^{オド}此^{ココロミ}レヲ見^{オモヒ}ルニ、心^{ココロ}モ不^エ得^エネバ、「此^{ココロ}レハ若^モシ鬼^{オノレオノレ}ニヤ有^ララム」思^{オモヒ}テ怖^{オゾ}ケレド「若^モシ死^{シニシ}人^{シニシ}ノ有^ルル。

恐^{オド}シテ試^{ココロミ}ムト思^{オモヒ}テ、和^{ヤハ}ラ戸^{アケ}ヲ開^{アケ}テ、刀^{ヌキ}ヲ拔^{ヌキ}テ、「己^{オノレオノレ}ハ己^{オノレオノレ}ハ」ト云^{イヒ}テ走^{ヨリ}リ寄^{オウナ}ベ、嫗^{オウナ}手^{オウナ}迷^ヒテ、手^{スリ}ヲ摺^{スリ}テ

迷^{マド}ヘバ、盜^{マド}人^{マド}、「此^{オウナ}ハ何^{カタ}ゾノ嫗^{オウナ}此^{オウナ}ハシ居^キタルゾ」問^{トヒ}ベケレ 嫗^{オウナ}、「己^{オノレアルジ}ガ主^{オハシ}ニテ御^{マシ}ル人^{ウセ}ノ失^{ウセ}給^{アツカ}ヲ、繚^{アツカ}

フ人^カノ无^カケレ 此^カテ置^{オキ}テ奉^{マツ}タル也^リ。其^{グシ}ノ御^{グシ}髮^{グシ}ノ長^{タケ}ニ餘^{アマリ}テ長^{タケ}バ、其^{ヌキトリ}ヲ拔^{ヌキトリ}取^{カツラ}テ鬢^{カツラ}トニセム拔^{カツラ}ク也^リ。助^{オキ}ケ給^{オキ}ヘ

ト云^{イヒ}ベケレ 盜^{シニシ}人^{シニシ}、死^{シニシ}人^{シニシ}ノ着^{オウナ}タル衣^{オウナ}ト嫗^{オウナ}ノ着^{オウナ}タル衣^{オウナ}ト拔^{ヌキトリ}取^{ヌキトリ}テア 髮^{バヒトリ}トヲ奪^{バヒトリ}取^{バヒトリ}テ、下^{オリ}走^{ハシ}テ逃^{ニゲ}テ去^{サリ}リ。

然^サテ其^{コシ}ノ上^{コシ}ノ層^{コシ}ニハ死^{シニシ}人^{シニシ}ノ骸^{シニシ}骨^{シニシ}ゾ多^{シニシ}ル。死^{シニシ}タル人^{ハウブリ}ノ葬^{ハウブリ}ナド不^{エセ}為^スラバ、此^{オキ}ノ門^{オキ}ノ上^{オキ}ニ置^{オキ}ケル。

此^カノ事^カハ其^カノ盜^カ人^カノ人^カニ語^カケル聞^{キキツギ}繼^カテ此^カク語^カリ傳^カヘタトヤ。

Rashōmon, in *Nihon koten bungaku taikei* vol. 26, pp. 169-170.

(TURN OVER)

(4) Translate the following passage from a **seen** text into **English**. [14 marks] Please disregard the note numbers. Comment on the grammar points below [6 marks]

むかし、田舎^{ゐな}わたらひしける人の子ども、井^ゐのもとに出^いでてあそびけるを、大人^{おとな}になりければ、お^をとも女も、恥^はぢかはしてありけれど、お^をとこはこの女をこ^をそ得^えめと思^{おも}ふ、女はこのお^をとこをと思^{おも}ひつゝ、親^{おや}のあはすれども、聞^きかでなんありける。さて、この隣^{となり}のお^をとこのもとよりかくなん。

47 筒井^{つゝみ}つの井筒^{みづづ}にかけしまろがたけ過^すぎにけらしな妹^{いも}見^みざるまに女、返し、

48 くらべこし振分^{ふりわけ}髪^{がみ}も肩^{かた}すぎぬ君^{きみ}ならずして誰^{たれ}かあぐべき
などい^いひく^くて、つ^つゐ^ひに本意^{ほんい}のごとくあひにけり。

Question 4
continued...

さて、年ごろ経るほどに、女、親おやなくたよりなくなるまゝに、も
ろともいふかひなくてあらんやはとて、河内かうちの国くに、高安たかやすの郡ごほりに、
い二きかよふ所出いできにけり。さりけれど、このもとの女、悪あしと思おも
へるけしきもなくて、出いしやりければ、おとこ、異心いとこありてかゝる
にやあらむと思ひうたがひて、前裁せんさいの中にかくれゐて、河内かうちへいぬ
る顔かほにて見れば、この女、いとよう化粧けいさうじて、うちながめて、
49 風吹ふうけば沖おきつ白浪しろなみたつた山夜半はにや君がひとり越こゆる
とよみけるを聞ききて、限かぎりなくかなしと思ひて、河内かうちへもいかずな
りにけり。

Ise monogatari, in *Shinpen Nihon koten bungaku zenshū*, pp. 104-105.

Grammar points to comment on (see underlined passages):

出いでてあそびけるを [2 marks]

女ををこそ得えめと思おもふ [2 marks]

聞きかでなんありける [2 marks]

END OF PAPER

One page follows with copy of vocabulary list for question 1

Copy of Vocabulary list for question 1 (from page 4):

はき出す	to vomit, to spit out
たちまち	すぐ
いきかへる	to resuscitate
洛中	京の中
もっぱら	その事ばかり
辻々	at every crossroad
上げられける→上げる	立てる
いわく	曰く＝言ったのは
いついくかの日	on a certain day
おどらす	泳ぐ
太夫	here with the meaning of 'signed by'
まこと知らず	まことらしくない
うたがふ	to doubt
上は	からには
かなふまじ	無理だろう
見みらす	to fail to see
ころぶ	to fall down
のびあがる	to stand on tip toe
貴賤	high-born and low-born alike